

浜岡原子力発電所4号機 主タービン軸振動の上昇傾向について

2010年6月4日

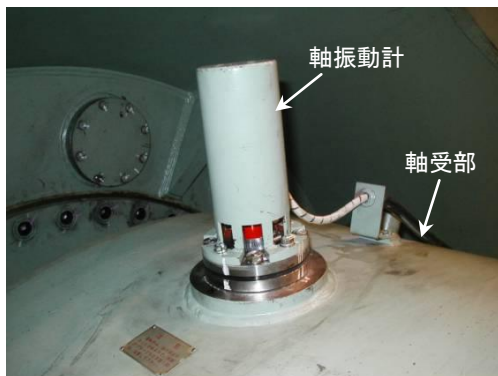
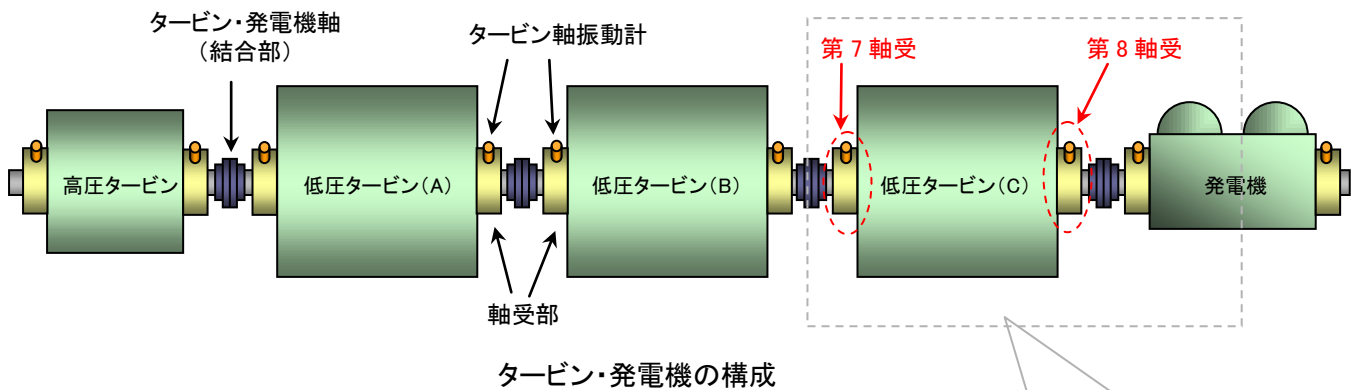
発生号機	4号機（定格熱出力一定運転中） ：沸騰水型、定格電気出力 113.7 万キロワット
発生年月日	2010年6月4日
発生時の状況	<p>定格熱出力一定運転中において、主タービン軸振動^{※1}のうち、低圧タービン(C)軸受部(第7軸受および第8軸受)の軸振動値にわずかな上昇傾向を確認しています。</p> <p>現在の振動値は、第7軸受部：0.0875mm、第8軸受部：0.0730mmであり、警報設定値（0.1750mm）に対し十分に低く、上昇傾向も緩やか^{※2}であること、また、軸受および軸受油の温度に異状は確認されておらず、プラントの安定運転に影響を与えるものではないと判断しています。</p> <p>今後も、主タービン軸振動について、継続監視していくとともに、原因について調査してまいります。</p>
放射能の影響	本事象は、放射性物質の漏えいに係わる事象ではありません。
お知らせ基準	運転情報「表 2-20 その他の事象であって、公表が望ましいと判断したもの。」に該当します。

※1 主タービン・発電機の軸振動を各軸受部で測定しており、4号機では10カ所で測定しています。

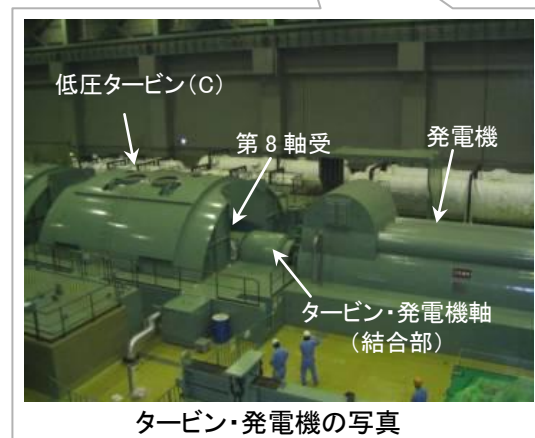
※2 第7軸受部 起動時振動値 約0.070mm（上昇率 約0.002mm/月）
第8軸受部 起動時振動値 約0.045mm（上昇率 約0.003mm/月）

以上

タービン・発電機の概要



タービン・発電機の軸振動計の写真



タービン・発電機の写真

4号機には、1基の高圧タービン、3基の低圧タービン、1基の発電機があり、それらは1本の軸でつながっています。
この軸を支えるためそれぞれに軸受があり、軸受部には軸振動計を設置し、軸振動を連続的に監視しています。
今回、そのうち、低圧タービン(C)の両端にある第7軸受と第8軸受の軸振動値にわずかな上昇傾向を確認しました。